

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21 年 10 月 21 日

【評価実施概要】

事業所番号	40711014		
法人名	のみやま有限会社		
事業所名	グループホーム おさ		
所在地	福岡市南区日佐3-40-30 〒811-1313 (電話) 092-588-5611		
評価機関名	社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会		
所在地	福岡市中央区荒戸3-3-39		
訪問調査日	平成21年10月16日	評価確定日	平成21年11月9日

【情報提供票より】(平成 21 年 9 月 29 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16 年 3 月 15 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 12 人	非常勤 4 人 常勤換算 13.3 人

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄筋 造り		
	2 階建ての～	1 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	18,000 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無(一時金を含む)	有(150,000 円)	有の場合償却の有無	有	
	無		無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	500 円	おやつ	円
	または1日あたり 円程度			

(4) 利用者の概要(10月16日現在)

登録人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護 1	6 名	要介護 2	3 名		
要介護 3	4 名	要介護 4	2 名		
要介護 5	2 名				
要支援 1	0 名	要支援 2	1 名		
年齢	平均 83.6 歳	最低	80 歳	最高	90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	のみやま内科医院 那珂川病院 沖歯科
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「一緒にいられる事の喜び」を理念として6年前に開設されたホームである。協力医院の医師は、受診以外にも気軽にホームを訪れ、食事を共にしたり、相談に乗っている。また、各医療機関とのネットワークもあり、認知症の進行予防や看取りケア等においても、適切かつ専門的な医療支援がなされている。支援においては、「今日一日」に重きをおいている。毎日の入浴や調理はもちろん、外出や個別支援においても、諸事情による「中止」や「延期」を常とせず、必ず代替の支援で臨んでいる。そこには、リスクを見極め、代表、管理者、職員一丸となって智慧を絞り、展開させていく実行力がある。開設数年は人員確保に苦労したが、現在ではホームの姿勢や取組みを外部評価で知り、職員となった事例もある。今後も、ホームの理念が地域の中でも展開され、支援の輪が広がって行くことを大いに期待できるホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の評価結果について、運営推進会議時や家族会時に報告を行い、職員会議時に協議している。具体的な手順として、目標改善シートを作成し、評価見直しを行いながら質の向上に取り組んでいる。この過程で、接遇、対応、地域交流への取組み等の成果が見られた。
	今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4) 管理者が調査項目を理解し、職員全員に配布し、それぞれが自己評価を実施した。その後、全員で協議し、事業所の全体像や業務の現状、課題についての認識を深め、改善策を計画した。職員全員が外部評価にかかわり、気づきを持って、サービスの質の向上に活かす体制がある。
重点項目	運営推進協議会の主な検討内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4,5,6) 町内会長・民生委員・地域包括支援センター・看護師・地域の介護支援専門員・家族・利用者を招いて、2ヶ月ごとに開催している。会議では、ホーム行事や利用者の近況報告、研修活動の紹介、認知症についてのレクチャーや高齢者疑似体験等、幅広い内容を取り上げ、サービスの質の向上と有益な情報提供の機会として活かされている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9) 契約時に苦情窓口や苦情対応体制について説明を行っているが、実際の相談や苦情は面会時に直接話されることがほとんどである。また、家族会を開催し、地域包括支援センター職員を交えて意見交換しながら苦情や意見等を聞く機会を確保している。意見や苦情については、内容に応じてその場での回答や、職員会議で検討した後、回答するなどの取組みがある。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 民生委員等との関わりや、棟上げに近所の人々が集まる等、地域からの期待や関心の高さが伺える。毎年、地域夏祭りや敬老会に参加し、中学校の職場体験や児童による演舞等を受け入れ、短大の学生や卒業生による回想法の研究にも協力している。住宅地の中にある事を考慮し、地域から顧問を迎え、ゴミ処理方法等の生活全般に対する相談や問題点の改善を行うなど、日常的にも円滑な地域とのつきあいへの配慮や取組みが見られた。

2. 調査報告(詳細)

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1 理念の共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続ける ことを支えていくサービスとして、事業 所独自の理念をつくりあげている	開設当初、ホーム全体で話し合い、「一緒にいる喜 びを感じられる家庭」を理念としている。利用者、ス タッフが、地域の中で共に暮らす毎日が大切であること を念頭におき、生活や活動の中で、地域とのかかわり を意識しながら支援している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の 実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内の数箇所に掲示し、自然と目に入る工夫 がある。毎月の会議時の唱和や、日常の支援を通じ た理念の実践に努めている。職員は、日常の生活や 活動の中で、地域とのかかわりを意識しながら利用 者と「一緒に」いる喜びを感じる暮らしを目指し、今日 一日に重きをおき支援している。		
2 地域との支え合い					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員と して、自治会、老人会、行事等、地域活 動に参加し、地元の人々と交流するこ とに努めている	開設時から地域連携に努めている。毎年、地域夏 祭りや敬老会に参加し、中学校の職場体験や児童に よる演舞等を受け入れ、短大の学生や卒業生による 回想法の研究にも協力している。住宅地の中にある 事を考慮し、地域から顧問を迎え、ゴミ処理方法等 の生活全般に対する相談や問題点の改善を行う等、近 所づきあいへの配慮も見られた。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及 び外部評価を実施する意義を理解し、評 価を活かして具体的な改善に取り組んで いる	前回の評価結果について、運営推進会議時や家族 会時に報告を行い、職員会議時に協議している。具 体的な手順として、目標改善シートを作成し、評価見直 しを行う取組みがある。この過程で、接遇、対応の充 実等の成果が見られた。自己評価は職員全員で行 い、事業所の現状や課題についての認識を深め、気 づきを生む機会として活かしている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について 報告や話し合いを行い、そこでの意見を サービス向上に活かしている	関係者を招いて2ヶ月毎に開催されている。会議では、ホーム行事や利用者の近況報告に加えて、認知症についてのレクチャーや高齢者疑似体験等、幅広い内容を取り上げ、出席者にとって有益な情報提供の機会として活かされている。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議 以外にも行き来する機会をつくり、市 町村とともにサービスの質の向上に取り 組んでいる	運営推進会議や家族会に地域包括支援センター職員の参加を得ている。日常的にもサービスにおける質疑や相談を行うなど、行政との関係づくりに取り組んでいる。また地域包括センターが主催する地域密着型サービス事業者との連絡協議会があり、他の事業所とも連携を取りながら、共にサービスの質の向上へ取り組んでいる。		
7 追加	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業 や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、 個々の必要性を関係者と話し合い、 必要な人にはそれらを活用できるよう 支援している	外部研修等に出席し、ホーム内で勉強会や受講報告会を実施し、職員全体で理解を深めている。また、運営推進会議や家族会時等にも、成年後見制度や日常生活自立支援事業の概要や利用手順についての説明を行っている。		
4 理念を実践するための体制					
8 (7)	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康 状態、金銭管理、職員の異動等について、 家族等に定期的及び個々にあわせた 報告をしている	家族の面会時に、金銭管理の確認や利用者の心身状況の説明、アルバムを提示しながら日頃の様子等を報告している。諸事情により、面会が難しい場合には、その都度の電話やメール(画像添付)送信を行っている。紙媒体でも、毎月、ホームだよりと個別の状況報告書を送付し、家族の手元に利用者の様子や記録が残る様に工夫している。		
9 (8)	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や 職員ならびに外部者へ表せる機会を設 け、それらを運営に反映させている	契約時の苦情対応体制について説明を行っているが、実際の相談や苦情は面会時に直接話されることがほとんどである。また、家族会を開催し、地域包括支援センター職員を交えて意見交換しながら、苦情や意見等を聞く機会を確保している。意見や苦情については、内容に応じてその場での回答や、職員会議で検討した後、回答するなどの取組みがある。		
10 (9)	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員 による支援を受けられるように、異動 や離職を必要最小限に抑える努力をし、 代わる場合は、利用者へのダメージを防 ぐ配慮をしている	本年度は結婚や介護等による退職のみで、他に離職事例はない。緊急的な欠員の際も、利用者へ安定したサービスの提供を行うために、毎月利用者の情報周知に努めている。現任の職員は常時ユニット間を往復し、利用者と自然と顔なじみの関係になれるように配慮し、イベントや日常的な応援時でも混乱を招かないように工夫している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 人材の育成と支援					
11	19 追加	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員採用について、年齢や性別などによる制限はない。資格や経験の有無についても同様に、本人の意欲や理念への共感、夜勤も含めて時間的・体力的に勤務が可能か否か等を重視している。定年退職後の勤続の是非については、本人の意向に沿っている。また、プライベートでも充実を図るために、休みの希望については、勤務調整を行うなどの支援体制が見られた。		
12	20 追加	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	内部研修に加えて、市から講師を招く出前講座を開催するなど、幅広いテーマを取り上げ、人権教育や啓発活動に取り組んでいる。去年からの改善項目でもある。		
13 (10)	21 (19)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画を作成し、毎月ホームで勉強会等を開催している。外部研修について掲示や回覧、会議時での情報提供を行い、職員の参加を募ったり、職員のスキルに応じて管理者が適切に割り振るなどの方法で研修参加の機会を確保している。研修後は受講報告会を開催し、新しい知識や情報の周知に取り組んでいる。		
14 (11)	22 (20)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センター主催の地域密着型サービス事業者連絡協議会にホーム長と管理者が参加している。また、運営推進会議に地域のグループホームに案内状を送付し、事業者交流の主旨に賛同を得られたグループホームからの参加実績も見られた。これらの機会等を通じて、サービスの質の向上に活かしている。		各事業所の現場職員が、体験談や経験を通じて得た実感等を交わす機会をもつことは、情報交換やモチベーションをあげるための大きなヒントになり得ます。職員同士の交流の機会を確保し、新たな発見や気付きをもってサービスの質の向上へ取り組まれることを期待します。


外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15 (12)	28 (26)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	原則として、5泊6日の体験利用を実施し、職員や他の利用者、ホーム全体の雰囲気等を体感した上で本人・家族の意向を確認し、契約を交わしている。新しい利用者には、できるだけ職員がかかわりを持ちながら、家族にも可能な限り面会の協力を求め、不安を軽減し徐々に馴染めるように配慮している。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16 (13)	29 (27)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「一緒にいる喜びを感じられる家庭」と理念にあるように、共に支えあう関係を大切にし、利用者、職員共に笑顔で声をかけあう光景が見られた。去年はホームで看取りから葬儀まで執り行った。職員は、心の中で常に利用者が寄り添っていることを感じながら、日々の業務に励んでいる。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1 一人ひとりの把握					
17 (14)	35 (33)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎月カンファレンスを開催し、利用者一人ひとりの思いや意向を確認している。利用後は24時間シートを活かして、利用者の習慣や生活パターン、思いや希望の把握に努め、記録し、職員全体への周知や介護計画書に反映される等の取り組みがある。		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18 (15)	38 (36)	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	利用者毎の担当職員と計画作成担当者が、本人の希望や家族の意向等をまとめて原案を作成し、協力医の助言等を得た上で、ケアカンファレンスにて職員全体で協議し、利用者本位の介護計画を作成している。介護計画の内容は、目標に加えて、時系列の具体的な対応や詳細な手順を作成し、関係者で情報を共有し、支援できるように取り組んでいる。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19 (16)	39 (37)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行う とともに、見直し以前に対応できない変 化が生じた場合は、本人、家族、必要な 関係者と話し合い、現状に即した新たな 計画を作成している	計画、支援手順、実施状況、経過記録、変更情報等 が明確で、利用者の現在の心身状況が把握できる書 面を作成し、状態が変化した場合の見直しにもすぐ に対応している。毎月職員会議でモニタリングを実施 し、3ヶ月毎に見直しを行っている。また、評価表を数 値化する等、現状を把握する上での工夫も見られた。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援					
20 (17)	41 (39)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に 応じて、事業所の多機能性を活かした柔 軟な支援をしている	可能な限り利用者、家族のニーズに応えている。 ホームでは、昨年、利用者の意向に応え、看取りか ら、葬儀、納骨のすべてを職員で行った。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21 (18)	45 (43)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納 得が得られたかかりつけ医と事業所の関 係を築きながら、適切な医療を受けられ るように支援している	契約時にかかりつけ医の継続と協力医の利用につ いて相談し、本人・家族の意向に沿って支援してい る。母体が協力医であり、定期受診や緊急時の対応 のほかにも、気軽に相談や助言を受けられる体制が ある。また、他の地域医療機関、特に緩和ケアや認知 症の専門医とは密に情報提供ができる体制をとっ ており、家族と連携しながら適切に支援している。		
22 (19)	49 (47)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、できるだけ早い段階から本人や家 族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し 話し合い、全員で方針を共有している	契約時、重度化等への対応指針を説明した上で、 利用者、家族等の意向を確認し「医療に関する同意 書」「看取り介護についての同意書」を交わしている。 支援の開始は段階的な状況の変化に伴い、関係者を 交えてその都度協議し、方針を共有するなどの取組 みがある。この過程において、利用者2名への支援事 例が見られた。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1 その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23 (20)	52 (50)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損 ねるような言葉かけや対応、記録等の個 人情報の取り扱いをしていない	本年度、ホームとして最も改善に力をいれた項目で ある。職員自身が日頃の言葉遣いや対応等を検証 し、利用者への対応はもちろん、対外的な接遇につ いても学ぶ機会を設け、マニュアルの作成等に取り組み 、実践に反映させている。記録についても尊厳に配慮し ている。また、情報は事務所に適切に管理し、写真 類の取扱いについても注意している。		
24 (21)	54 (52)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するの ではなく、一人ひとりのペースを大切に し、その日をどのように過ごしたいか、 希望にそって支援している	おおまかな流れはあるものの、利用者一人ひとりの 生活リズムや意欲を尊重している。食事にかかる時 間や取り方、食後の過ごし方、入浴等、その時々の利 用者の気持ちとペースを尊重した対応がみられた。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25 (22)	56 (54)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人 ひとりの好みや力を活かしながら、利用 者と職員と一緒に準備や食事、片付けを している	栄養バランスや利用者の好み等を反映させてメ ニューを作成し、ホームで調理している。食材の調達 や準備、後片付け等、個々の能力や役割りを尊重しな がら行っている。炊き込み御飯や茶碗蒸し等、多品目 で、見た目も食欲をそそり、職員も利用者と同じ料理 を食べながら、和気あいあいと食卓を囲む光景が見 られた。		
26 (23)	59 (57)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてし まわずに、一人ひとりの希望やタイミ ングに合わせて、入浴を楽しめるよう に支援している	水曜日を除いて、14時位～夕方までは毎日準備し ている。利用者の希望を優先し、毎日の入浴も多い。 あまり入浴を好まない方にも、隔日での入浴を勧め ており、タイミングを見計らったの声掛けやシャワー浴 を行うなど、定期的な清潔保持の機会を確保してい る。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27 (24)	61 (59)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせる ように、一人ひとりの生活歴や力を活か した役割、楽しみごと、気晴らしの支援 をしている	観劇や行楽等の定期的な行事や外出、散歩、買い物、洗濯物たたみ、掃除、お洒落や新聞の購読等、利用者それぞれの役割や楽しみをみつけ、日々の張り合いや生きがいとなるよう取り組んでいる。また、毎週水曜日は、利用者それぞれの意向に沿った個別支援を行っている。		
28 (25)	63 (61)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	観劇や温泉センターの介護高齢者コース、花見や行楽など定期的に計画立てての外出のほかに、日常的な散歩や買い物をかねたドライブ等、利用者の希望に沿って個別に支援している。本年度は新型インフルエンザ感染を懸念して外出を控える事業所も多い中、感染リスクが高い場所を避け、なるべく安全に、気分転換出来るような外出支援に取り組んでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29 (26)	68 (66)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中 玄関に鍵をかけることの弊害を理解して おり、鍵をかけないケアに取り組んでい る	日中は開錠しており、職員は利用者の様子を細かに観察し、見守りを行い、声をかけたり、一緒に出かける等の対応をしている。玄関には、防犯の面からもチャームを設置しており、利用者の安全と自由な暮らしへの支援が見られた。		
30 (27)	73 (71)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜 を問わず利用者が避難できる方法を身に つけ、日ごろより地域の人々の協力を得 られるよう働きかけている	運営推進会議時に、町内会等に非常災害時の協力依頼や年2回の避難訓練への参加をお願いしている。この過程を経て、利用者や地域住民参加による避難訓練の実施が見られた。自然災害時についても、マニュアルを作成し、食料等の備蓄や持ち出しバック、連絡網、避難チャートを準備する等の取り組みがある。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31 (28)	79 (77)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日 を通じて確保できるよう、一人ひとりの 状態や力、習慣に応じた支援をしてい る	週2回協力医が検食し、栄養バランス、カロリー等、献立内容をチェックしている。キザミやトロミ等の利用者の心身状況に応じた食事形態にも対応できるように支援している。また、食事摂取量、水分摂取回数、体重を記録し、定期的に主治医や協力医に情報提供し、助言や指導を受けながら適切に支援している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32 (29)	83 (81)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台 所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者 にとって不快な音や光がないように配慮 し、生活感や季節感を採り入れて、居心 地よく過ごせるような工夫をしている	程良く採光されており、全体的に明るく、優しい感じ の共用スペースになっている。季節感を意識的に取り 込んだ装飾や、淡い色調の家具や壁紙等、居心地良 く過ごせるように工夫している。リビングにはソファー が数台おいてあり、自然とくつろげる空間となってい る。		
33 (30)	85 (83)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や 家族と相談しながら、使い慣れたものや 好みのものを活かして、本人が居心地よ く過ごせるような工夫をしている	利用者がそれぞれ、寝具、写真、テレビ、位牌などを持 参されている。各部屋ごとに、家族との思い出、先 祖、戦争体験等、利用者それぞれの生き方や想いが 反映された趣となっていた。また、居室の床は、衝撃 吸収性のあるフローリング仕様となっており、安全面 への配慮も見られた。		

 は、重点項目。
(数字)は、国の標準例による番号